

ごあいさつ

いつも阪神電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

まず、去る6月22日に尼崎車庫内において走行試験中の車両が車止めに衝突する事故を起こし、皆さまにご心配とご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。早急に原因とその背景を究明し再発防止策を講じるとともに、これを機に、安全管理体制の再点検と強化に努めてまいります。



阪神電気鉄道株式会社
代表取締役・社長

秦 雅夫

また、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、様々な意味でその影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。このような未曾有の状況の中で、当社も甚大な影響を受けていますが、重要な社会インフラを担う鉄道事業者として、種々の感染防止策を講じるなど、お客さまに安全かつ安定した輸送サービスを提供してまいります。

さて、当社は、その経営理念に「安心・快適」そして「夢・感動」を掲げているように、常にお客さまの安心の最も重要な基盤である安全を最優先とした堅実経営に重きを置いてまいりました。そして、2019年度も引き続き「責任事故ゼロの継続」を安全目標に掲げ、次のとおり、ハード・ソフト両面にわたり安全性の向上に取り組みました。

まず、神戸市内における連続立体交差工事では高架化が完了し、11か所の踏切道を廃止することにより、本線の立体化率が95%となりました。このほか、耐震補強工事、大阪梅田駅の改良工事、淀川橋梁改築工事などを着実に進め、運転保安の向上に努めました。

また、安全重点施策の一つである「駅構内における安全性の向上」につきましては、神戸三宮駅において当社初となる可動式ホーム柵の設置工事に着手し、2021年春頃の稼働を目指しており、大阪梅田駅の改良工事においても可動式ホーム柵の設置を予定しています。

更に、「異常時における対応力の強化」につきましては、鉄道部門全体での“列車事故総合対応訓練”を実施し、お客さまの避難誘導、施設や車両の点検と復旧作業、お客さまに対する列車運行情報の発信などについて検証し、課題や改善点を抽出することで有事の備えを強化しました。

このような取組みを通じて、2019年度も「責任事故ゼロの継続」を達成することができました。これからも、お客さまに安心してご利用いただけるよう全役員・社員が丸となって輸送の安全確保に取り組んでまいります。

最後に、本報告書は、鉄道事業法第19条の4の定めに基づき、当社の安全確保に関する取組みや鉄道の適切なご利用について皆さまにご理解いただくために公表するものです。今年度は、新たに特集記事や安全コラムを掲載するなど、皆さまが当社の取組みにより興味を持っていただけるように内容を見直しました。ぜひ本報告書をご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

2020年7月